

杉山ゼミの研究紹介

人間科学部 人間科学科 2年 佐藤 優衣

くという単純な作業です。全員が同じ指示を受けたにも関わらず、ゼミ生たちの描いた絵はまさに十人十色。ゼミ生の人となりが理解できた、そんな活動でした。

私たちちは神奈川大学人間科学部の杉山ゼミ10期生です。今回は私たちの活動についてお話をします。杉山ゼミでは”心理学”にまつわることであれば何でも自分たちで研究できる、そんなゼミです。そのため学生たちの自主性が大切になってしまいます。ゼミ生たちでやりたいことを話して活動する内容を決めたり、ゼミ生それぞれが自分の好きなテーマを設定して研究したり、みんなのびのびやりたいことができるのが杉山ゼミの魅力です。

まず杉山ゼミでは、心理検査や心理療法として扱われる「風景構成法」や「箱庭療法」を、実際に体験しました。

風景構成法とは、投影法による心理検査のひとつです。投影法とは、あいまいな刺激素材に対しても被験者に自由に反応してもらい、その結果を分析・解釈することでパーソナリティを測定することができます。実験者から指示をされたものを紙に描いてい

そして箱庭療法も体験しました。箱庭療法とは、砂の入った箱の中にミニチュア玩具を置き、また砂 자체を使って自由に何かを表現し、遊ぶことを通じて行う心理療法です。自分の内側にある気持ちを表現し外側に出すことで、自分自身の気付かないような内面と対話することができ、様々な気付きを得られます。「箱庭」 자체を知っている方は多いと思いますが、ゼミ生たちは箱庭初体験だったため、童心に返ったような気持ちで楽しく体験することができました。



杉山ゼミの研究紹介



- ・心理学的にどのようにコミュニケーションをとれば良いのかが、全てこちらの本に書かれています。
- ・人付き合いに対する苦手意識がある方も、そうでない方も、図書に書かれている多くのシチュエーションに「あるよなこういう時」と共感すること間違いなしです。そして何より、書かれているどの対処法も分かりやすく、誰にでも読みやすい一冊でした。
- ・心理学というと難しい印象があるかもしれません。実は日常生活のいたるところに関わっているものですね。興味がある方はぜひお手にとって見てください。杉山ゼミ10期生からおススメさせていただきます。

次に、杉山先生が執筆した図書を使って心理学に対する理解を深める活動をしました。10期生が選んだのは『読むだけで、人づきあいが上手くなる。』という図書です。初対面の人とうまく会話をするには：などと、人間関係に対する悩みを一度は感じたことがあるのではないでしょう。そんな悩みに対し、心理学的にどのようにコミュニケーションをとれば良いのかが、全てこちらの本に書かれています。人付き合いに対する苦手意識がある方も、そうでない方も、図書に書かれている多くのシチュエーションに「あるよなこういう時」と共感すること間違いなしです。そして何より、書かれているどの対処法も分かりやすく、誰にでも読みやすい一冊でした。心理学というと難しい印象があるかもしれません。実は日常生活のいたるところに関わっているものですね。興味がある方はぜひお手にとって見てください。杉山ゼミ10期生からおススメさせていただきます。

続いて、それぞれ興味がある研究テーマを決め、プレゼンテーションを行いました。杉山ゼミ10期生の研究テーマは以下のとおりです。

【杉山ゼミ10期生研究テーマ】

・恋愛における嫉妬

・加害者の心理

・消費者心理

・消費者心理と広告デザイン

・営業の仕事

・手書きツイート

・ブルースト現象

・ストレス

・自傷行為の心理

・無気力に起因する不登校についての考察

・色の印象操作

・印象形成「どんな人が好かれるのか」 ・感動について

・自尊心の低さが対人関係に及ぼす影響

・出生順位が性格にどのように影響するか

次にキャリアワークについて理解を深める活動をしました。数年後には就職を控えている10期生は、将来のこととも視野に入れて生活していることと思います。自分には何が向いているのだろう、どんなことを仕事にしたら良いのだろう、と悩める時期です。このキャリアワークでは、まず自分の潜在的認知を明らかにすることから始まりました。自分が仕事をすると、どんなことを重要視するのかを引き出していくから、自分に向いている働きを見つけていきます。はじめから、どんな仕事に就きたいかを考えることではなく、自分自身のことをよく理解するということが大切なのですね。



様々な研究ができる杉山ゼミは、仲間と共に自分自身も成長できる大切な場所です。これからも10期生の仲間たちと一緒にイキイキと活動していきます。



箱根で行われた夏合宿の集合写真